

区分別科目	ろう孔管理関連		時間数 (法定)	17 (16)
特定行為名	(A) 胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換			
担当指導者	福井 道彦（医師） 牧野 茂（医師） 竹本 隆博（医師） 仲原 英人（医師） 伊庭 治代（看護師）			
学ぶべき事項	（共通）ろう孔管理関連の基礎知識	1. 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうに関する局所解剖 2. 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理 3. 胃ろう、腸ろう及び膀胱ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. カテーテル留置と患者の QOL 5. カテーテルの感染管理 6. カテーテル留置に必要なスキンケア		
	（A）胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	1. 胃ろう及び腸ろうの目的 2. 胃ろう及び腸ろうの適応と禁忌 3. 胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等） 4. 栄養に関する評価 5. 胃ろう造設の意思決定ガイドライン 6. 胃ろう及び腸ろう造設術の種類 7. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と特徴 8. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期 9. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の方法		
研修概要	（共通）ろう孔管理関連の基礎知識	胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換の必要な患者、膀胱ろうカテーテルの交換の必要な患者に対し、目的、方法を理解し、かつ安全にカテーテル若しくはボタンの交換を実践できる看護師を養成する。		
	（A）胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換	医師の指示の下、手順書により、身体所見（ろう孔の破たんの有無、接着部や周囲の皮膚の状態、発熱の有無等）等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換を行う。		
到達目標	1. 多様な臨床場面において、医師の指示の下、手順書により、身体所見（バイタルサインや皮膚所見等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル、胃ろうボタン交換、膀胱ろうカテーテル交換ができるようになる。 2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。 3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。 4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	OSCE：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	実習：評価表（Mini-CEX）を用いた観察評価			
	試験：eラーニング上で筆記試験を実施			
研修内訳	講義（16 時間）	視聴時間 45 分＋講義確認テスト 15 分		
	OSCE	OSCE（1 時間）は、宇治徳洲会病院で行う		
	実習	実習は指導者の下、宇治徳洲会病院で行い、最低 5 症例経験する ※各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。		
	試験（1 時間）	科目修了試験（筆記試験）1 時間 （共通）ろう孔管理関連の基礎知識 0.5 時間 （A）胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換 0.5 時間		

授業計画						
科目名	回	研修方法 /評価	授業 形態	学ぶべき事項		担当指導者
ろう孔管 理関連	第 1 回	講義	放送	(共通) ろう孔 管 理 関 連 の 基 礎 知 識	胃ろう、腸ろうに関する局所解剖	福井 道彦 牧野 茂 竹本 隆博 仲原 英人 伊庭 治代
	第 2 回				膀胱ろうに関する局所解剖	
	第 3 回				胃ろう、腸ろうを要する主要疾患の病態生理	
	第 4 回				膀胱ろうを要する主要疾患の病態生理	
	第 5 回				胃ろう、腸ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	
	第 6 回				膀胱ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント	
	第 7 回				カテーテル留置と患者の QOL	
	第 8 回				カテーテル留置と患者の QOL（尿道）	
	第 9 回				カテーテルの感染管理	
	第 10 回				カテーテル留置に必要なスキンケア	
	第 11 回			(A) 胃ろうカテ ーテル若しくは腸 ろうカテーテル又 は胃ろうボタンの 交換	胃ろう及び腸ろうの目的、適応と禁忌、胃ろう造設の意思決定ガイドライン	
	第 12 回				胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）① 栄養に関する評価	
	第 13 回				胃ろう及び腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）② カテーテルの感染管理	
					胃ろう及び腸ろう造設術の種類	
	第 14 回				胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの種類と特徴	
	第 15 回				胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換時期、交換の方法 (1)	
	第 16 回	実習	面接	胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換時期、交換の方法 (2)		
				OSCE 前実習（シミュレーターを用いた実習）		
				胃ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換		
		OSCE	試験	(A) 胃ろうカテ ーテル若しくは腸ろ うカテーテル又は胃ろ うボタンの交換	胃ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換（見学）	
胃ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換の実施						
第 17 回	試験	試験	科目修了試験（筆記試験）			

参考図書・資料等	全日病 S-QUE 提供の講義資料をダウンロード
備考	* e ラーニングにおける講義は、各自のパソコンで自宅等で視聴して差し支えない。 * 質問事項がある場合は、全日病 S-QUE が提供する掲示板を参照、あるいは指導者まで連絡、適宜指導を受ける。 * 指導者は、インターネットを通じて受講生の履修状況、設問の回答内容を確認し、必要に応じて指導、質疑に対する応答を行う（祝祭日を除く）。 * 1 回以上レポートの提出を行い、指導者から添削指導を受ける。レポートの内容は学習進度に応じて履修開始後、連絡される。 * OSCE は講義室で行い、Mini-CEX により評価され、基準に達していない場合は、実習を行うことができない。 * 各行為の実習観察評価 0.25 時間は 5 症例目の実習時間に含める。 * 科目修了試験（筆記試験）は、各時間終了後に行われる確認テスト及び実習で学習した範囲より出題し、指導者の監督の下、本人確認を行った上で、講義室で集合して行う。 * 指導者は、必要に応じて受講者の理解を面接等で確認し、理解が不十分と判断された場合は、臨時の講義を行う。講義の場所は、講義室とする。